

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3171500394
法人名	社会福祉法人 麗明会
事業所名	グループホーム ぼんだの里
所在地 (電話番号)	西伯郡大山町安原1118-1 (電話) 0859-53-3001

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成21年1月8日	評価確定日	平成21年2月5日

【情報提供票より】(20年 12月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	15 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.5

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	昼食代に含む
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(12月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	15 名
要介護1		名	要介護2	4 名
要介護3	7 名		要介護4	4 名
要介護5	2 名		要支援2	1 名
年齢	平均 84.9 歳	最低	74 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	淀江クリニック 大山口診療所 いなむら歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年半となる「グループホームぼんだの里」は、同じ敷地内に地域密着型認知症対応ディサービスがあり、月一回の音楽療法を通所の利用者と一緒に参加し、大きな声を出す事で、肺活量や腹筋練習、発声練習を行い、認知症の進行予防に努めている。グループホームでは利用者の人間としての尊厳を大切にす支援助が日常的に行われており、ケアに対するスキルアップ研修計画や伝達講習にも余念が無く、接遇の改善にも職員全員での取り組みが始まり、その成果が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善計画書が作成されており、改善項目に沿って検討し、改善されている項目もあり、現在進行中のもも含め、レベルアップをはかりながら続行中も見受けられた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) この度の自己評価は各ユニットの職員が全員で話し合い、リーダーが意見をまとめ、管理者が記入した。管理者は職員と一緒に前回の評価を活かし、指摘を受けた項目に対し、改善計画書を作成し、項目に照らし合わせ具体的な改善に取り組んでいる事が確認できた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一回の開催には到っていないが、運営推進委員会には地域住民や町職員、地域包括支援センターの職員、有識者、利用者代表、利用者家族代表とメンバーも多種にわたり、ホームでの生活状況や食事の栄養管理に町役場の管理栄養士にアドバイスを頂いた事、火災訓練等の状況報告が行われている事が会議事録で確認できた。会議で頂いた意見に対し、職員全員に回覧し、出来ることから取り組み、サービス向上に努めている事が確認できた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月のホームの便りで、担当職員が各家族宛てに近況報告と合わせ、金銭管理の報告も定期的に行われている。職員の異動や緊急時等の報告は、その都度個々に合わせた方法で報告を行っている。また、面会時管理者、リーダー、受け持ち担当が状態等の説明をしている。家族からの意見や希望は、訪問時や電話報告時に抽出出来る様に努めている事が伺えた。管理者や職員は家族から何時でも話が聞ける雰囲気づくりに努めている事が伺えた。運営推進会議においても、家族代表が参加し意見を言う機会を設けている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会にも入会し、公民館祭りへの参加や地域の保育園児の訪問による遊戯発表会、併設ディサービスの利用者と共に音楽療法の交流を行っている。非常災害時に備え、地域の自治消防との連携についても話し合いが進められている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を再確認し、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し住み慣れた地域の中で安心して暮らし、柔軟な介護支援の理念も作られ、職員全員で、理念の実践に努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者始め、職員全員で毎朝理念の唱和を行い、共有・実践に向け、日々取り組んでいる事が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会にも入会し、公民館祭りへの参加や地域の保育園児の訪問による遊戯発表会を併設ディサービスの利用者と共に交流を行っている。非常災害時に備え、地域の自治消防との連携についても話し合いが進められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	この度の自己評価は各ユニットの職員が全員で話し合い、リーダーが意見をまとめ、管理者が記入した。管理者は職員と一緒に前回の評価を活かし、指摘を受けた項目に対し、改善計画書を作成し、項目に照らし合わせ具体的な改善に取り組んでいる事が確認できた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催には到っていないが、運営推進委員会には地域住民や町職員、地域包括支援センターの職員、有識者、利用者代表、利用者家族代表とメンバーも多種にわたり、ホームでの生活状況や食事の栄養管理に町役場の管理栄養士にアドバイスを頂いた事、火災訓練等の状況報告が行われている事が会議事録で確認できた。会議で頂いた意見に対し、職員全員に回覧し、出来ることから取り組み、サービス向上に努めている事が確認できた。		家族が遠方で参加が難しい等あるが工夫をして開催をされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に提供している食事のバランスに関して、町担当者を通じ、町役場の管理栄養士に定期的にメニューの食材を見てもらい、カロリー、栄養のアドバイスを貰う等、サービスの質の向上に取り組んでいる。町の包括支援センターに入院、事故報告等相談、助言、地域ケア会議に出席し連携を取っている。		栄養指導は継続して受けられ利用者へ栄養バランスのとれた食事の提供をされたい。今後も町との交流を継続されたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームの便りで、担当職員が各家族宛てに近況報告と合わせ、金銭管理の報告も定期的に行われている。職員の異動や緊急時等の報告は、その都度個々にあわせた方法で報告を行っている。また、面会時管理者、リーダー、受け持ち担当が状態等の説明をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や希望は、訪問時や電話報告時に抽出が出来る様に努めている事が伺えた。意見箱には投書が無く、不満、苦情等は頂いていない。家族アンケートからも不満や苦情に繋がりそうな意見はなかった。管理者や職員は家族から何時でも話が聞ける雰囲気づくりに努めている事が伺えた。運営推進会議においても、家族代表が参加し意見を言う機会を設けている。		今後も家族の意見や不満等話せる雰囲気作りや機会を作っていきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の移動時には、その都度、家族や利用者へ伝え、馴染みの職員でケアに当たる等、ダメージが生じない様に配慮をしている事が伺えた。家族には月ごとの便りで離職者等あったときは知らせ不安を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じて、レベルアップ研修計画が策定されている。研修参加者による伝達講習もホーム内カンファレンスで行われている。職員本人が参加したい研修については、管理者と各ユニットリーダーが相談し、勤務交代で対応・研修に参加出来る様に配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、相互研修にも参加している。管理者が他のホームと連絡し、職員を伴い、施設見学・研修を依頼し、職員は自分たちの課題も持参し参考意見を頂く等、実りのある相互訪問が出来、サービス向上させていく取り組みをしている。		グループホーム協会に参加されたので次年度さらに研修、勉強会等実施されサービスの向上に努められたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に、利用者本人と家族関係者で、ホーム見学をして頂き、入所当夜は家族にも同じ部屋に泊まって頂く等の配慮がされている。仕事帰りに寄ったり、盆・正月等は家族やお孫さんが泊まりに来たりと、職員と家族もなじみの関係づくりに配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人本位に支援がなされ、職員が利用者の気持ちを察し、一緒に時代劇のテレビを見ながら過ごし、俳優の事や新聞記事の事、「昔はどんなの？」等問いかけし、喜怒哀楽を共有している姿が伺えた。配膳や洗濯物たため、簡単な食事作り等できることは手伝ってもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の習慣や意向、暮らし方の希望等について、家族から情報を収穫し、毎日の散歩や日常生活の中で表情、行動、言葉等から汲み取り、思いや意向の把握に努めている。その日の本人希望を踏まえ、本人本位に日々過ごせるよう支援がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や関係者の意見を踏まえ、サービス計画を作成している。カンファレンス時に本人・家族、かかりつけ医の参加も確認でき、それぞれの意見や希望が反映した介護計画の作成になっている。		作成された介護計画の日々の実施状況の確認が困難なものもあった。折角作成した計画に対し、日々の実施状況の記録が基となり、定期的な見直しや評価が出来ることから、各課題の実施状況記録の整備を希望します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要に応じて、随時見直し、現状に即した計画が作成されていた。家族や関係者の意見も踏まえた計画となっていた。		見直し時、更新時に家族、医師の参加が見られない。参加がない場合でも家族、本人の意向や医師の助言の記録作成をされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望する散髪屋への支援やかかりつけ医への受診、入院時の面会から家族への連絡、家族の希望があれば宿泊できる等、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行っている事が確認できた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医や主治医への受診・往診の支援を行っている。医師との連絡や連携も家族を交えて行われており、家族が受診・往診時立ち会えない時は、結果等に関して、随時家族へ連絡されていることが確認できた。		受診、通院の付き添い後の報告はきちんとされているが、看護職員が付き添わないときは今後、看護職員と医師との状態把握のための連携を考えられてはと思います。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	歳を追うごとに、利用者の介護度状況が重度化しつつあり、終末期等に関しても、管理者は家族・かかりつけ医等関係者と話し合い、本人・家族の希望に添えるよう、全員で支援の方針を共有できるようにしている。法人は「利用者本位に支援が出来れば・・・」と方針を管理者・職員に伝えている事が伺えた。		職員のターミナル対応の勉強が必要と思われる。法人との終末期の対応の連携をする。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問当日は、利用者のプライドを傷つけるような声かけや対応は見受けられなかった。記録も事務所に置かれており、各職員が事務所で記録をしていた。個人情報の取り扱いにも配慮がなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望や意向を大切に、一日をどのように過ごしたいのか、その時々で状況を見ながら、希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は併設施設の厨房で準備された物を、職員と一緒に運ぶ役割と食後の下膳を行う役割が自然に利用者の中で出来ており、朝食や夕食はホーム内で作り、準備や片付け等利用者の力を活かしながら、出来ることを職員が支援している。かゆ食やトロミ剤が必要な方には本人や家族と相談し対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯については一応決めているが、職員がその日の気分や希望、タイミングを見計らい、声掛けを行い、入浴が楽しめるように支援がされていた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望で時代劇のビデオが上映されていたり、好きな編み物やロールペーパーで干支の作品を作ったりと、日々の生活を尊重し、会話を多くし、生活歴や本人の力を活かした楽しみごとの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は少し遠い所へドライブに出かけたり、利用者の身体機能低下予防の観点からも、今年のホームの目標として、「毎日散歩」が掲げられており、毎日希望者と一緒に近くのお宮さんに参りに出かけている。天気の悪い日や足元が悪い時、利用者が出掛けたくない時は、職員が声掛けして、併設のディサービスに行く等の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者始め職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関やディサービスとの連絡口にも鍵がかけられて居らず、自由に行き来が出来、散歩も楽しめるように配慮がなされている。利用者の状態に応じて、さり気なく散歩に付き添い、周辺の畑や田んぼと一緒に散策し、仕事をしている方との挨拶、会話も大切なコミュニケーションの場となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年二回、昼夜に分けて利用者参加のもと行われており、役割分担も連絡網も整備されていた。今後は運営推進会議を通じて、自治消防団との連携や非常災害時の地域住民の避難場所にも利用してもらえるように、ホーム側からの提案も模索中である。		非常災害時の地域住民の協力なしでは乗り切れない事が多々なると考えられる事から、是非、自治会や地域消防団との連携、協定等協力が得られる様に今後の働きかけに期待したい。 備蓄も計画して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスは定期的に町の管理栄養士にアドバイスを頂きながら栄養バランスに気を配り、水分も自由に摂取出来る様にポットが共有空間に置かれ、水分摂取に配慮の必要な利用者には職員がさり気なく促し、一人ひとりの状態に合った支援がなされていることが確認できた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に観葉植物が置かれ、廊下や利用者の部屋の入り口には行事の写真やレクリエーションで作った作品が飾られ、訪問した家族やお客さんが退屈しない空間づくりに配慮がなされていた。台所と居間が兼用でここには、新聞や雑誌が置かれ、自由に閲覧出来るようになっている。ストーブを囲むようにソファが配置され、利用者と職員が団欒できるスペースになっている。料理の良い香りが漂い、遮光も程よく、季節感のある飾りに日めくりカレンダーがさり気なくおかれ、居心地よく過ごせる空間になっている。		共有の場所の温度が少し低いように感じました。また、ストーブの上に加湿のためと思われる水をはった鍋を確認しました。加湿は必要と考えますが、転倒などによる危険を想定した配慮や工夫が欲しいと感じました。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたレトロな筆筒や椅子が利用者の部屋に置かれており、思い出の写真や孫の写真が壁に並んでいる。部屋の飾りやベット等の配置も利用者や家族と相談しながらの配置になっている。利用者の好みで暖簾がかけてあったりと、本人が居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		